

CSR、環境への取組について…01

石川県印刷関連団体協議会

令和5年 新年互礼会…02

印刷産業環境優良工場の紹介

株式会社 笠間製本印刷…04

令和4年度下期会議より

中部地区印刷協議会…06

オフセット印刷・DTP

技能検定試験…07

ソフトボール大会・ポスターグランプリ…08

今後の予定
会員短信

No.305

発行/令和5年3月31日

全印工連CSR認定のご案内

～第41期ワンスター認定募集(2023年4月28日×切)

■募集期間

2023年2月1日～4月28日 ※2023年6月認定登録(予定)

■認定の概要

ワンスター認定はCSR認定の標準認定であり、審査機関のCSR&サステナビリティセンターが書類審査を実施し、外部の有識者で構成する全印工連CSR認定委員会において認定します。認定企業は、CSRマークを自社の名刺やホームページ、顧客の印刷製品に表示することができます。認定取得後は2年毎に更新審査を行い、上位認定であるツースター認定を取得することも可能です。

■お問合せ

詳細は全印工連ホームページをご覧ください。

全印工連CSR 検索

ワンスター認定
CSRマーク



P-00000

CSR、環境への取組について

全日本印刷工業組合では組合員企業への提案としてCSR認定や環境優良工場表彰、GP(グリーンプリンティング)認定制度等への取組を推奨しています。なぜこうした取組が注目されているのか?どのような価値があるのか?という事について今号「石川の印刷No.305」で取り上げてみたいと考えます。4、5ページでは石川県で先進的な取組みを実践している(株)笠間製本印刷様の取材記事を掲載するとともに、左記にて「全印工連CSR認定のご案内」の一部抜粋をお見せすることで組合員企業様へのひとつのきっかけになればとの思いです。ご参考ください。



石川県印刷関連団体協議会 令和5年 新年互礼会

顔ふれも新たに、新時代へ向けて一歩踏み出す誓いを！

■日時：令和5年1月5日(木)午後6時開宴 ■場所：ホテル日航金沢 4階「鶴の間」



令和5年の新年互礼会は、ご来賓の方々をはじめ、それを迎える協議会役員も新しい顔ぶれとなり、長引くコロナ禍で停滞する石川県の印刷業界に、新たな出発と出会いの予感を感じさせるものとなった。

今年のご来賓は、昨年3月の石川県知事選挙で28年ぶりに新たな知事に就任した馳浩氏と知事選に伴って行われた金沢市長選挙で、これも12年ぶりに新たな市長に就任した村山卓氏をお招きした。なお、馳知事に於かれては急な公務のため当日は欠席されたが、代わりに石川県商工労働部部長 内田滋一氏にご出席をいただいた。また、協議会役員も昨年改選し、新たに就任した小杉善文会長(石川県印刷工業組合理事長)をはじめ新役員の体制で皆様をお迎えた。

今年も昨年に続き、新型コロナウイルス感染症の感染予防に配慮をしながらも少し緩和した方向で実施した。ひとつの円卓に5名まで、田上専務理事の司会で進め、開会に先立ち、昨年12月8日に逝去された協議会常務理事 田中栄二氏のご冥福を悼み全員で黙とうを行った。国歌清聴に続き、小杉会長の年頭の挨拶では、印刷文化の持つ豊かさの継承と、今年、組合創立110周年を迎えるにあたり、石川県の印刷業界の発展を誓った。引き続き、ご来賓各位よりご祝辞をいただき、恒例の鏡開きを3年ぶりに実施した。乾杯の挨拶は、前協議会 会長の吉田克也氏により行われ、新会長への期待と、絆が強い石川県の印刷業界の益々の発展を願って乾杯を行った。

その後、全日本印刷工業組合連合会の滝澤光正会長をはじめ、各所からの祝電披露を行っ

た。しばしの歓談の後、中締め挨拶に臨んだ協議会常務理事の桐畑真知子氏は、印刷業界にも女性の感性を生かして、さらに女性が活躍できる場を広げることがこれからの業界発展につながる鍵と話し、力強く三本締めで卯年の新年互例会を締めくくった。



小杉理事長の挨拶(抜粋編集)

皆さま明けましておめでとうございます。只今ご紹介をいただきました、昨年の5月より石川県印刷工業組合の理事長を、そして7月より石川県印刷関連団体協議会の会長を務めております。株式会社 金沢シールの小杉と申します。今日は関連団体協議会のデビュー戦ということで大変緊張しておりますが、皆さまに年の初めにあたりまして、ひとことご挨拶を申し上げたいと思います。

本日は、石川県より馳知事さまのご名代、商工労働部 内田部長、そして金沢市より村山市長にご臨席を賜っております。大変高い席からではございますが、あらためて感謝を申し上げます。本日はありがとうございます。

さて、こういったご挨拶では、通常は今のコロナウイルスの話ですとか、われわれの業界の危機的な状態についてのお話をするのはではないかと思ひます。しかし、こういった話題は、年明けより暗くなりますので、今日は別の話題をお話したいと思います。

ここ2、3年前からでしょうか、私の会社のほうに、年末よりお客さまから、「今年から年賀状を差し控えたい」といったご案内がたびたび

来るようになりました。年賀状について考えることは、それまであまりなかったのですが、なんかちょっと寂しいなという思いがありまして、少し年賀状について調べてみました。

年賀状というのは、皆さんご存じかもしれませんが、平安時代、貴族が遠く会えない親戚に文を書いたのが起源だといわれています。そして江戸時代に入りまして、飛脚というものが登場し、庶民の方々にも手紙を送る文化ができました。年賀状としてのきちんとした形を為すのは明治6年、いまから約150年前に官製はがきができたことにより、この風習が日本で定着するようになったといわれています。また年賀状は、欧米や近隣の国々でもございせんが、欧米はクリスマスカードを送る風習がありますし、アジアの中国、韓国、台湾などでは、春節の1月末から2月にかけてカードを送ることがなされているようです。

われわれも当たり前のようにお客さまとのご挨拶や友人、知人、さらに長く会えない知人などに近況を報告することを目的として年賀状を交換しています。正直、少し面倒くさいなと思ひながらも、これが日本人の風習ですので、皆さんの多くもそういった思いで書かれているのではないかと思います。また、最近、年賀状というのは若い子たちにはあまり使われていないようで、LINEのスタンプなどを送って済ませている傾向があるようにも聞かされております。

ところで、先日カタールのワールドカップでは、日本代表が大活躍したのは皆さんご記憶に新しいかと思ひます。試合内容もさることながら、選手たちの試合の終わったあとのロッカールームをきれいに片付けて帰る、サポーターに至ってもスタジアムをきれいに片付けて帰るということをし

ていたという報道がありました。これは、日本人として大変誇らしく思うわけでありませぬ。一方、今の日本はGDPでは世界第3位という位置にありますが、一人当たりのGDPは世界で27位と、大変遅れを取っているとも聞かされております。

そして今、コロナも少し落ち着いてきて、金沢市内にもようやく観光客がみえるようになりませぬ。日本は他の国にはない自然や歴史などと合わせて日本人としての世界に誇る文化や国民性など、我々にとって当たり前にやっていることなども海外では稀に見られることでもあります。

年賀状のお話に戻りますが、私は日本が誇るべきものの一つに年賀状も関係があるのではないかと思っています。今、印刷業界は、ペーパーレスやデジタル化といった大きな波に飲み込まれているところですが、年賀状のように何かの想いを伝える、大事な人に感謝の気持ちを伝える、そういったことが、この印刷業の我々としてはとても大事になってきているのではないかと思ひます。デジタルは、簡単にメッセージを送ることはできますが、印刷物や年賀状のような、何かの想いをものに託して人に伝えるということが、少なくなってきています。私たち、印刷を生業とする皆さんとともに、お客さまにこの印刷の価値というものをもう一度お伝えして、年賀状を復活させるなど一度やめたものを取り戻すことはなかなかできませんけれども、それぞれの企業で、印刷をもう一度見つめ直して、それぞれの印刷物の目的をお客さまにしっかりと伝えていく、それが我々の使命なのではないかと思ひます。

ところで、今年9月9日に石川県印刷工業組合の創立110周年を迎えることになりました。記念式典と祝賀会を行う予定としております。本日、お集まりの石川県印刷工業組合の組合員だけではなくて、関連団体協議会の皆さまもお招きして、盛大に執り行いたいと思ひます。また、そういった皆さまと集まる機会を大事にしながら、これからの石川県の印刷業界の発展に大きく関わっていただけたら幸ひに思ひます。

最後に本年一年が、今日お集まりの皆さまの各企業、そして皆さまにとって素晴らしい一年になることを祈念しまして、開会のごあいさつとさせていただきます。本日はまことにありがとうございます。

石川県商工労働部部長 内田滋一氏の挨拶(抜粋)



ただいまご紹介をいただきました、石川県の商工労働部部長、内田と申します。明けましておめでとうございます。いまご紹介にありましたように、知事は急きょ出席が叶わぬこととなりましたので、私が代理で知事から祝辞をお預かりしております。知事は本当に、皆さまご存じのとおり、大変元気です。それから普段からとても気合いが入っています。この暮れにマスコミの方から「今年の一字は『戦』という字でしたけど、知事はどうですか」という質問に対して、知事は「同じ『戦』うだけど、私は『闘』魂だ」と言っております。今年も、馳知事の明るさとその元

気を、県民の皆さま、産業界の皆さまにしっかりとお届けできるように頑張っていきたいと思ひたいです。では、知事から預かってまいりました祝辞を代読させていただきます。

石川県知事 馳浩氏からの祝辞(全文)

明けましておめでとうございます。本日は石川県印刷関連団体協議会の新年互礼会にお招きをいただきありがとうございます。皆さまそれぞれよい年を迎えられ、新たな一年を展望されているところと思ひますが、県としては引き続き、危機管理や事業者支援に万全を期すとともに、県民の皆さまに希望をお示しし、笑顔になっていただける一年にしなければならぬと思ひます。

さて、県内では本年5月にG7富山・金沢教育大臣会合が、10月からは石川百万石文化祭が開催されます。また、北陸新幹線県内全線開業まで約1年となっております。小松一台北便や国際フルーズ船の再開など、新型コロナの影響も徐々に回復し、インパウンドの復活も見込まれております。こうした国内外から注目を集める絶好の一年に、多くの方々へ石川県にお越しいただくため、石川県らしいパンフレットであるとか、お土産の包装紙、紙袋など、さまざまなかたちで魅力発信をしていくことが大変重要であります。印刷業界の皆さまのお力が欠かせませぬ。

一方でデジタル化の進展やグリーン化の推進など、印刷業界は過去に経験したことのない大きな環境の変化に直面していると承知しておりますが、こうした状況だからこそ新たなニーズが生まれ、それに対応していくことで大きな可能性が広がるものと思ひます。県としても技術開発や新たな分野への進出、販路開拓など、将来の成長に向けた前向きな取り組みをしっかりと後押ししてまいりたいと思ひます。皆さまには引き続き、さまざまなかたちでの情報発信をはじめとして、石川県の発展にお力添えを賜りますようお願いを申し上げます。

結びに、本令和5年が皆さまにとりまして希望に満ちた、実り多き一年となりますことを心から祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

金沢市長 村山卓氏 挨拶(全文)



皆さま、明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健康やかに新たな年をお迎えになられたと心よりお喜びを申し上げます。

先ほど、馳知事が今日、来られなくなったとうかがいました。今日は朝の3時から中央卸売市場で馳知事とずっと一緒におりまして、なかなか大変な公務をされていると思ひました。私も一緒にいたわけですけれども、実は昨年末、私は新型コロナウイルスに感染いたしました。12月24日に発熱、25日の抗原検査で陽性ということになりました。皆さま方にはご心配をおかけし、また、新年互礼会に来られるかなということも、ご心配をおかけしたかもありません。ですが、12月3日に4回目のコロ

ナワクチンを接種しまして、それによっておかげさまで重症化することなく、発熱したのは1日だけれども7日間の療養が必要ですので、残り6日間は本当に自宅にいたままということで、十分な療養を取ることができまして、1月1日から気力、体力とも万全なかたちで、この新年を新たな気持ちで迎えることができました。おかげさまで今日、盛大に開催されている新年互礼会にも参加させていただくことができました。本当にありがとうございます。

さて、市のほうではコロナ対策等、そして円安対策、エネルギー高対策ということで、これまで資金繰りの支援と事業継続の支援、消費需要の喚起、雇用の継続、この4本の柱に対策を行ってまいりました。国のほうでも第二次補正予算が成立し、経済回復に向けた動きがさらに強く、今年年初から動き出していくということになります。これに呼応し、市のほうとしても経済対策を頑張っていきたいと思ひます。

また、DXの波があります。これに対しても、金沢市のほうは2年前から、主に市役所内のDXを中心とした改革を行ってきましてけれども、今年4月から新たなDXのプランを作成し、市内の産業界に対するDXをどうやって広げていくか、そのような取り組みをしてまいりたいと思ひます。ぜひ市のほうにもご相談いただき、また各業界のなかでもご相談をいただいたうえで、業界のDX化に向けて取り組んでいただければと思ひます。

威勢のいい話をしましたけれども、今年はいろいろな波が来ます。ここまでのコロナ禍からウィズコロナ、さらにはアフターコロナへと転換していく、2類から5類への変更も間近だと思います。また、先ほど内田部長からもございました、5月にG7富山・金沢教育大臣会合、これによって海外に対して金沢・石川の魅力がPRされる、そんなこととなります。そして10月には文化の祭典が国文祭として行われます。これは全国に回ってくる国文祭でもありますけれども、金沢で行われる、石川で行われる国文祭はまた違うなと思わせることができるのではないかと思います。

そして来年3月には北陸新幹線の県内全線開業、敦賀延伸があります。これによって大阪からの注目も浴びることとなります。

申しおぼろげなけれども、今年の10月には金沢美術工芸大学の新しい小立野キャンパスへの移転があります。この中には美大に関係する方も何人かいらっしゃるかと思ひますけれども、これによって新しい金沢の美、デザイン、企画力が評価される、そういったチャンスにもなると思ひます。これから印刷業界に対しては、ペーパーレス化などもありますけれども、暗い話ばかりではないと思ひます。ぜひビジネスチャンスと捉えて、新たな一歩を踏み出されることを期待しております。

結びになりますけれども、本日ご参会の皆さま方のご多幸、ご健勝を心よりお祈り申し上げますとともに、皆さま方のご商売の繁盛を祈念して、私のあいさつとさせていただきます。本年も一年間、またよろしくお願ひ申し上げます。

(事務局編集)



環境優良工場表彰の最高峰を受賞、付加価値経営で200年企業へ



INTERVIEW

株式会社 笠間製本印刷

印刷産業環境優良工場表彰をはじめ、環境に関する数々の賞や認証を取得している笠間製本印刷。環境配慮型の経営に取り組む背景について、田上社長と藤田製造部部長にお話を伺いました。

印刷産業環境優良工場表彰とは

(社)日本印刷産業連合会による印刷産業界における各企業の環境問題に対する取り組みの促進と、印刷工場環境改善及び印刷企業に対する社会の支持・理解を獲得するための表彰制度。

「環境への取り組みには
メリットしかありませんね」

環境への取り組みを始めた背景を教えてください。

田上社長 (以下 田上) 環境への取り組みは、現会長が社長の代から注力してきました。ISOは品質、環境と両方のマネジメントシステムを取得しましたし、環境配慮型製品としてエコ通帳を業界に先駆けて発売しました。エコ通帳とは、表紙を従来の布製から紙製に変えたりリサイクル可能な商品です。2009年には印刷産業環境優良工場表彰の奨励賞をいただき、それがひとつの弾みになりましたね。

藤田部長 (以下 藤田) 2013年には印刷産業環境優良工場表彰の経済産業省商務情報政策局長賞を受賞しました。経済産業大臣賞の次点となる賞です。

田上 2013年の局長賞も上位賞でしたが、次のステップとして、最高峰の経済産業大臣賞を取りたいという気持ちが強まりました。ただ、受賞へのハードルはかなり高かったんです。

藤田 難易度はぐっと上がりました。奨励賞では書類審査だけでしたが、上位賞では現地審査があります。ハード面だけではなく、企業姿勢などがすべてが評価に関わってきます。担当者レベルだけの取り組みではなく、社員一丸となって取り組む必要がありました。

田上 2015年はちょうど当社の創業140周年に当たる年で、記念すべき年に経済産業大臣賞を受賞したいという思いもあったんです。結果として受賞でき、140周年記念パーティではその報告ができたことが晴れがましかったです。

経済産業大臣賞受賞に向けてどのような取り組みをされ、何が評価されましたか。

田上 ハード面では売電用の太陽光発電や蛍光灯のLED化、電力のデマンドコントロールを進めましたし、環境配慮型製品の提供として業界初となるカーボンオフセット通帳やカラーユニバーサルデザイン通帳を作りました。「業界初」という冠は商品として強みになりますし、企画から開発までスピーディーに行える弊社の体制があったからこそ実現できたと思っています。

現場ではカーボンオフセットに伴い、商品製造時のCO₂排出量が計測できるようになっていますし、廃棄物処理においても25種類の分別ルールを設けています。

藤田 法令遵守にも、かなり配慮しましたね。環境に関する法令を熟知し、社内できちんと守られていることを証明しないとイケません。印刷業界向けの法令集を読み込み、地域の条例を調べ、県庁には何度も足を運んで指導を受けました。コンプライアンスを守っていることは大前提で、それをベースにプラスアルファの取り組みができていくことが評価されたと思います。

田上 印刷産業環境優良工場表彰の局長賞から経済産業大臣賞へステップアップする際は、CSR活動にも力を入れました。最高賞を受賞するためにはハードだけでなく、ソフトの強化も必要で、CSR認定取得に向けた取り組みが不可欠だと考えました。2014年にはワンスターを取得し、2022年にはスリースターまでランクアップさせています。

藤田 2009年には国際的な森林認証制度であるFSC認証や、グリーンプリンティング(GP)工場認定も受けています。CSR認定取得で取

り組んだことはGPでも生かれます。また、GPマークが入った製品の普及に努めたGP普及大賞(2021年、2022年連続)も取っています。GPマークはGP認定工場で作ったものにはしか入れられませんし、弊社から外注へ出す場合もGP認定工場へお願いします。GP普及大賞はGPマークが入った印刷物を多く製造したことが評価されました。

田上 弊社で製造する通帳にはFSCマークやGPマークを入れることができ、それが優位性にもなっています。これらのマークを入れれば、お客様も環境配慮型企業として評価されますし、一般消費者もそういった企業を選ぶことができますから。

藤田 2014年は、「翌年に最高賞を取ろう!」という目標があったため、勉強の1年でした。既に経済産業大臣賞を受賞している企業へ工場見学に行き、廃棄物処理の細かい分別など優れた取り組みは参考にさせていただきました。

田上 社員数名で見学に行きましたね。一回の見学会で2社ほどを回って、帰社後、参加社員にレポートを書いてもらいました。今では、同業者の方から弊社の工場を見学したいという声をいただき、うれしく思います。

環境に関する認定を取得し、どんなメリットがありますか。

田上 環境認証の取り組みをした理由に、企業として知名度アップを

したいという思いもありました。金融機関で使われる印刷物を主力商品とする弊社にとって競合は業界の超大手ばかり。その中で勝ち残っていくためには、やはり知名度アップが必要です。現状でも「かさまさん」の愛称で親しまれていますし、長年の実績とノウハウには自信があります。それにプラスして環境に配慮した製品を持っていけば、会社の価値と知名度が上がり、営業もしやすくなります。弊社ではお客様向けの情報誌『よむまっ誌』を発行して、取得した認証についてはそちらのトップ記事でもピーアールして、お客様から「これはどうやって、取得したんですか?」というお問い合わせをいただくこともあります。

藤田 CSR活動でも、社員が一丸となって取り組む機会があることは良いことだと思います。家族と一緒に清掃活動に参加してくれる社員もいますし、廃棄物の分別ではクオカードの回収など社員の提案からスタートした取り組みもあります。

田上 メリット、デメリットで言えば、メリットしかありませんね。認証までには書類作成や工場の体制を整備するなど、大変なこともあります。それはどんな業務をする上でも必要なことですからデメリットとは捉えていません。人材を確保する面でもメリットを感じています。知名度や企業イメージのアップにより弊社へ興味を持ってくださる方が増え、求人への応募も増えていますから。

藤田 求人増加には、社員向けに健康授業を実施するなどして健康経営優良法人2022に認定されたことも影響しています。

今後の企業展望を教えてください。

田上 業界全体が同じ状況だと思いますが、社会情勢の影響を受けて原材料費や電気代が高騰し、業務の効率化や固定費の見直しを迫られています。小さなことから見直しをし、利益を出していけないといけません。弊社は金融関係の印刷と、2008年から参入したクリアファイルの印刷が事業の2本柱ですが、新たに大きな柱となる事業を育てていきたいと考えています。私はよく社員の皆さんに「みんなが経営の当事者ですよ」と伝えています。社内の効率化を促すために、全員から業務改善提案を毎月提出してもらっているのも当事者意識を持ってほしいからです。

私の社長としての目標のひとつが、「会社を長く続けること」です。継続は信頼にもつながり、企業の強みになると思うんです。弊社は2015年に創業140周年を迎え、2025年には150周年、その先の200年企業を目指しています。息の長い企業であるためにも組織の体制を整え、独自の価値を追求していきます。

「プラスアルファの取り組みが
できていることが評価に」

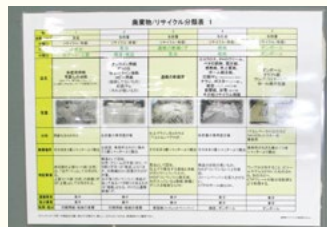
代表取締役社長 田上 裕之

製造部部長 藤田 長宏

環境への取り組み

廃棄物処理25種類の分類

産業廃棄物処分業者の見直しをし、これまで焼却・埋立て処分されていたもののリサイクルの可否を調査。独自に25種類の分類ルールを設けて、リサイクル率を向上、最終廃棄物の量を削減。早い段階からCTPの無処理版を採用するなど、廃液・廃油の削減を実現。



太陽光発電と天窓の設置

工場の屋根に690枚の太陽光パネルを設置(売電用)。年間の発電見込みは約200,000kWhで、年間89tのCO₂削減効果が期待できる(太陽光発電協会業界自主ルールによる)。また、天窓を各所に設置し、自然光を照明として利用している。

電灯のLED化

2013年から工場全体の蛍光灯をLED化。年間で60,043kWhの電力量減少を見込んでいる。



電力量の管理

デマンド監視装置やエアコン自動制御装置を設置して、デマンドが上昇しすぎないようにコントロールしている。



環境配慮型製品

・**エコ通帳**
通帳の表紙を従来の布製から紙100%のエコクロスに変え、これまで焼却処分していた端紙をリサイクル可能にした。

・**カーボンオフセット通帳**
通帳製造時に排出されるCO₂(カーボン)を排出削減活動(森林保護やグリーンエネルギー事業)で相殺(オフセット)する仕組みを取り入れたカーボンオフセット通帳を業界で初めて開発。

CSRの取り組み

海岸清掃活動

エフエム石川主催「クリーン・ビーチいしかわinはくさん」や白山市主催「海岸美化清掃」に参加し、白山市徳光海岸の清掃活動を行う。社員やその家族も参加している。

献血活動

毎年、石川県赤十字血液センターより献血バスにお越し頂き、社員やご来社の方に声をかけて献血を実施。2022年は31名が参加している。

エコキャップ運動

ペットボトルのキャップを集めて、回収業者へ渡すことで、世界の子どもたちにワクチンを届けるボランティア活動に協力。

中部地区印刷協議会

令和4年度 下期会議

「印刷業界の構造改革が必要！」

愛知・岐阜・三重・富山・石川の各県工組が出席



中部地区印刷協議会（大洞正和会長・岐阜県印刷工業組合理事長、中部地区協）下期会議（愛知県会議）が2月17日午後1時30分より、名古屋市東区のホテルメルパルク名古屋で開催され、中部5県（愛知、岐阜、三重、富山、石川）の印刷工業組合の執行部、役員など52名が出席。全日本印刷工業組合連合会（全印工連）からは、滝澤光正会長、鳥原久資副会長、池尻淳一専務理事、浜田彰常務理事、また、2023全日本印刷文化典広島大会の開催地工組より宇都宮公徳副理事長が出席した。司会進行は中部地区協事務局の河原善高氏（愛知県工組専務理事）が務めた。

□石川県からの出席者

小杉善文理事長、小島寛祐副理事長、山越敏雄副理事長、今川弘敏副理事長、田中逸郎副理事長、田上裕之専務理事、橋本雅生常務理事、黒澤志志常務理事、西川幸洋事務局長（9名）

全印工連事業を積極的に取り込み経営改善に！

全体会議は、酒井良輔中部地区協副会長（愛知県工組副理事長）が、「本日は、滝澤会長からDXについての話があるが、今後の業界の将来を考えると必要不可欠なシステムだと考えている。今日一日、全印工連の仕組みを皆さんと共有しながら充実した会議にしたい」と開催挨拶を行ない、次いで、大洞中部地区協副会長が忙しい中の参加に礼を述べた後、「電気代の高騰等大変な思いをしていると思う。もちろんお客様にお願いし価格転嫁をして製品単価を少し上げさせて頂く。そして生産性向上して、DXも取り組みながらということである。しかし、これだけ物価が上がってきては、賃上げ春闘の気持ちはわかるが物理的に苦しいところである。今日一日、業界の仲間が知恵を出し合って個々の進むべき道を模索しながら有意義な時間にして頂きたい」と挨拶。

続いて、滝澤会長が挨拶に立ち次のように述べた。「就任当初から、今の時代に合った印刷産業の構造改革が必要と言ってきた。現在、全印工連では高付加価値コミュニケーション産業への転換を目指して、DXによる生産向上、事業領域の拡大による新たな価値創出、サステナブルな企業運営の3つを基本的な考え方として、各事業の推進に積極的に取り組んでいる。昨年の9月29日に名古屋において全印工連としては3年ぶりに全国規模のCSRサミットを開催、翌30日には全印工連フォーラムを開催し、全国から300名を超える皆さんに集まっていた。フォーラムの席上、生産性向上のツールとしてDX-PLATのトライアルメンバーによるパネルディスカッションを行ない、どのようなものかを広く組合員の皆さんに伝え、10月から本格運用ということを告知した。DX-PLATは印刷産業全体の新しい産業への姿を構築することが目標である。

印刷企業の現状は大変厳しい。メーカーによる3度の用紙の値上げ、電気料金を始めとするエネルギー価格の高騰によって、経営環境は厳しい状況に置かれている。こんな時だからこそ組合の皆さんが集うことで、1社では解決できない事柄を皆で力を合わせて突破していく。そこに組合の価値があると思っている。組合員各社の皆さんには全印工連の事業を積極的に

取り入れることによって、少しでも経営改善の役に立てていただきたい。とりわけDX-PLATのさらなる理解、活用を通じて業界の構造改善、高付加価値コミュニケーション産業へ、各企業が変革するスタートを切る事を期待している」。

最後に滝澤会長は、「現在、全印工連では地区協運営改革に取り組んでいる。中部地区協は以前からしっかりと運営をされている。まず、全体会議を行ない、その後分科会を開催する。そしてもう一度全体会議に集まり分科会で議論した内容を皆さんにシェアする。まさに地区協のモデル地区と認識しており、他地区協にも見習いをお願いしている」と、地区協の取り組みに言及した。その後、全体会議に移り、前半は池尻専務理事が全印工連概況報告を行ない次のように概要を説明した。

- グリーン購入法基本方針における印刷用紙の取り扱いについては、昨年の調査では回答企業の4分の1が、再生紙が手に入らないと答えている。全印工連では環境省に強く要望書を出している。
- 全印工連官公需調査による問題点の多い3つは、①知的財産権の帰属、②最低制限価格制度の導入、③地元優先発注、県外への仕事の流出となっている。
- 総務省「全国自治体入札制度実態調査」の実施については、現在総務省で取り纏め中。
- SR調達推進について（価格競争から価値の競争へ）。その後、「DXによる価値創出について」と題し滝澤会長より説明が行なわれた。休憩を挟み分科会が行なわれ後、全体会議後半では各分科会、理事長会の報告が行なわれた。

質疑応答、大洞会長の下期会議締め、小杉善文副会長（石川県工組理事長）の閉会の挨拶で全体会議は終了した。その後、交流会が行なわれ、大洞会長の挨拶、鳥原全印工連副会長の乾杯の発声で県を越えての交流会が開始された。宴半ば、水谷勝也副会長（三重県工組理事長）の中締めで終了した。

（以上、「愛知の印刷」令和5年2月 616号より抜粋引用）

スキルアップのために、 チャレンジして 自分を高めよう！

国家検定

オフセット印刷技能検定試験

主催：石川県職業能力開発協会

令和4年度（前期）技能検定 印刷職種 オフセット印刷作業

令和4年度（前期）の合格発表が、令和4年9月30日（金）石川県商工労働部労働企画課より有りました。受検者の人数は、1級7名、2級5名の内、結果、合格者は、1級2名、学科のみ合格1級2名、2級1名、実技のみ合格1級1名となりました。特に、今年度より実技試験の会場は、原則、受検生のいる会社で実施することになりました。

印刷業界で働く上で1級合格は私の大きな目標でした。合格できても嬉しかったです。技能検定は実技と学科があり、中でも実技試験の始まる前の緊張と終わった後の安堵感は今でも覚えています。実技試験で私が感じた、大事な事は緊張の中での「平常心」です。いかに普段通りの作業ができるかどうかで結果に繋がると感じています。



印刷技能検定 1級取得
株式会社 笠間製本印刷 金谷和希さん

長年従事した印刷業界で「1級印刷技能士」という資格取得が一つの目標でした。今回合格できても嬉しいです。実技試験では、時間配分を意識し落ち着いて行えたことが合格できた大きなポイントだと思います。日頃の作業でヘラの使い方、清掃など練習し慣れることも大切だと思います。



印刷技能検定 1級取得
株式会社 笠間製本印刷 井川 聡さん

国家検定

DTP技能検定試験

主催：石川県職業能力開発協会

令和4年度（後期）技能検定
プリプレス職種 DTP作業

令和4年度（後期）の合格発表が、令和5年3月10日（金）石川県商工労働部労働企画課より有りました。受検者の人数は、1級4名、2級3名の内、結果、合格者は、1級合格1名、1級学科のみ合格2名、2級学科のみ合格2名となりました。今年度は、試験的に金沢情報ITクリエイター専門学校のご協力を得て、実技試験の会場としてMac OSの設備を利用して、実技試験を実施しました。



富士フイルム ビジネス イノベーションジャパン株式会社 北陸支社
〒920-8501 石川県金沢市中橋町11-18 TEL 076-260-0900

ビジネスDX、
結構得意なので
相談してほしい。

ビジネスDXをリードする。
富士フイルムビジネスイノベーション



石川県印刷工業組合
ソフトボール大会日時：2022年11月19日(土)
場所：金沢市専光寺ソフトボール場(第3・4球場)

3年ぶりに開催されたソフトボール大会の朝はかなり冷え込んでいましたが晴天に恵まれ気持ちよく開催されました。

試合は好プレーが多く観覧していてもとても面白い試合が多かったです。きっと普段の仕事場では見れない同僚の表情がチーム内でも見れたのではないのでしょうか…。今まで以上に懇親が深められる大会であったら嬉しく思います。大会運営にご尽力いただきました幹事会社の安達写真印刷(株)社員の皆様皆さま本当にありがとうございました。



Congratulations

優勝：ヨシダ印刷(株)
準優勝：(株)金沢シール
第3位：高桑美術印刷(株)



ポスターグランプリ

第13回テーマ「カタチ」

主催：愛知県印刷工業組合、岐阜県印刷工業組合、三重県印刷工業組合
石川県印刷工業組合、富山県印刷工業組合、愛知県印刷協同組合

応募期間

令和4年8月22日(月)～令和4年9月3日(土)

審査日

令和4年9月12日(月)メディアージュ愛知

審査発表

令和4年9月30日(金)愛知県印刷工業組合ホームページより

展示日時

令和4年10月25日(火)～10月30日(日)
愛知県美術館 8階ギャラリー展示室E・F

表彰式

令和4年10月30日(日)愛知県芸術文化センター 12階アートスペースA

石川県からの応募状況(5県の総応募数：432点の内 石川県から82点)

一般の部5社計 9点、高校生の部2校計7点、
大学生・専門学校生の部4校計66点

優秀賞:1名

石川県知事賞……………上田 ミカさん 日本デザイナー芸術学院(愛知県)

入賞:8名

石川県印刷工業組合理事長賞…黒川 理々香さん 金沢学院大学

榊光文堂賞……………小西 舞鈴さん //

榊モリサワ賞……………梶野 こと美さん //

富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ賞

……………又川 美智子さん //

榊キングコーポレーション賞…池田 なつみさん //

ウエノ賞……………東野 暖加さん 石川県立寺井高等学校

榊大塚商会賞……………吉野 創さん 金沢情報ITクリエイター専門学校

石川県洋紙会賞……………池田 優さん ヨツハシ(株)(岐阜県)

入選:16名

門前 絢南さん、辻口 陽菜さん、高野 未来歩さん…金沢学院大学

山先 柚芽さん、柴田 惇さん……………金城大学短期大学部

大谷地 克弥さん、北山 萌華さん……………金沢情報ITクリエイター専門学校

出倉 幸奈さん、柿田 美咲さん……………//

栄枝 美緒さん、福田 千沙さん……………北陸デザイナー専門学校

佐藤 未歩さん、青倉 結菜さん……………石川県立工業高等学校

高橋 汽章さん……………テリーの事務所

安川 千華さん……………ヨシダ印刷株式会社

竹内 菜々子さん……………(有)たけうち印刷

今後の予定

3月28日(火)	第6回理事会	(石川県印刷会館 2階会議室)	7月上旬	オフセット印刷技能検定(実技試験)	(会場未定)
4月11日(火)	令和5年度 新入社員研修会	(金沢市ものづくり会館)	7月下旬	石川県印刷関連団体協議会 令和5年度通常総会	(会場未定)
4月15日(土)	紙断裁機特別講習会	(安達写真印刷株式会社)	9月9日(土)	組合設立110周年記念式典	(ホテル日航金沢)
4月25日(火)	第7回理事会	(石川県印刷会館 2階会議室)	9月10日(日)	組合設立110周年記念ゴルフ大会	(ツインフィールズ(小松))
5月13日(土)	令和5年度通常総会	(山代温泉 瑠璃光(加賀市))	11月11日(土)	第26回ソフトボール大会	(金沢市専光寺ソフトボール場)
6月23日(金)	令和5年度中部地区印刷協議会 上期会議	(ホテル日航金沢)			

会員短信

代表者変更(金沢支部)

高桑美術印刷(株) 代表取締役社長 高桑悟史
(令和4年8月26日)

榊中川印刷 取締役社長 酒井 但
(令和4年10月)

榊ショセキ 代表取締役社長 河合英文
(令和5年2月6日)

お悔やみ

酒井キミ子様(金沢支部) 榊中川印刷 金沢市浅野本町二167番地
取締役社長 酒井 但様の実母 令和5年2月27日ご逝去 83歳

高桑佐和子様(金沢支部) 高桑美術印刷(株) 金沢市泉本町5丁目27番地
代表取締役会長 高桑秀治様の実母 令和5年3月1日ご逝去 96歳

笠間史盛様(金沢支部) 榊笠間製本印刷
白山市竹松町1905番地 取締役会長ご本人 令和5年3月4日ご逝去 78歳